

サンチヨのろばが歌えら

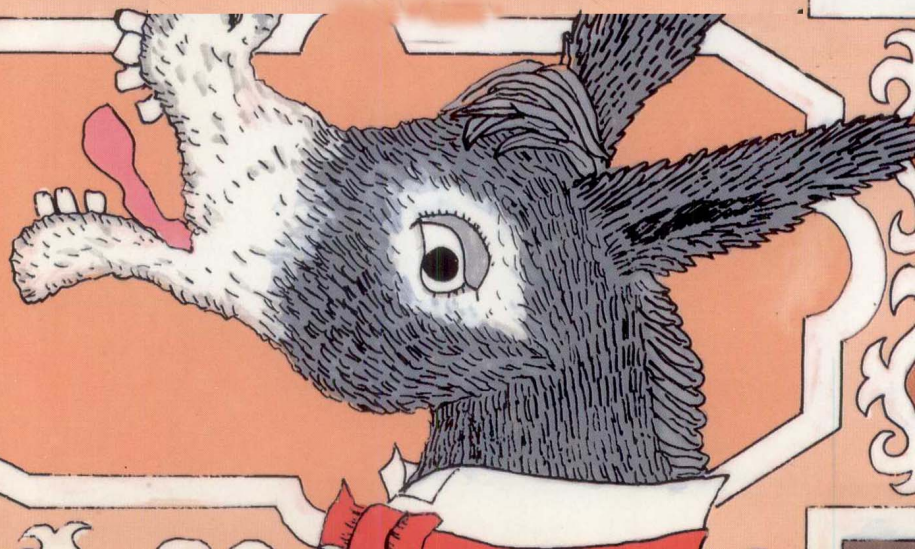
津山 章作

絵 太田良作



サンチ

が歌う



津山章作 つやま しょうさく 本名 森本榮。岡山県生まれ。大
東文化学院卒。主婦の友社元編集局長。日
本童謡協会会員。山本有三記念路傍の石文
学賞選考委員。住所 〒167 東京都杉並区
西荻南 3 - 6 - 18 電話 03-332-2927

サンチヨのろばが歌う^が©

定価二二〇〇円

荷造送料三〇〇円

昭和六十三年六月十五日発行

著者 津山章作

発行所 辛夷村舎

〒167 東京都杉並区西荻南 3 - 6 - 18

電話 03-332-2927

振替 東京 6 - 73479

印刷・製本 栗原印刷株式会社

〒334 埼玉県鳩ヶ谷市坂下町 4 - 8 - 4

電話 0482-81-0175

FAX 0482-85-5365

無題（これ詩になっていますか）

お　　お　　ラ・マンチャの男

ゆかりの町の夕まぐれ

バルコンの家並みは灯ゆらぎ

石畳の道を歌声が流れる

ホラ　サンチョのロバの唄が――

酒蔵の香り増す古都の夜は

星輝きギターの調べで弾む

若者たちは笑いざわめき

歌声冴えてビーノの杯が躍る

ホラ　サンチョのロバの唄が――

※ビーノ＝ブドウ酒

屋嘉聴見

目次

無題 屋嘉聰見	1
原作者セルバンテス殿に代って述べる口上の戯唄	11
序の唄	14
しゃべれないけど	16
昔も今もこれからも	18
オリーブとおいら	20
もうけ役	22
鼻ぺちゃ天使	24
今は馬の代用品だけ	26
片恋い	28
思い姫	30
晴のち雨	32
ロシナンテ	34

やっぱりちがう＊	36
ドウルシネーア＊	38
ひとり娘サンチーカ	40
“おにばばあ”	43
姪御のアントニーア	46
村の司祭さん	48
わかりあうすべはなくても＊	50
隣み＊	52
おいらの啼き声＊	54
昔のおいらに戻りたい＊	56
おいらは年頃＊	58
望み叶ったはずなのに＊	60
サンチーカとサンチーコ＊	62
なのに なぜ――＊	64
サンチョの涙＊	66

からすむぎ＊	68
穴の底で＊	72
妙ちきりん＊	74
夢	76
ドン・キホーテがろばに乗るとき	78
先祖と先輩とおいらと	80
やがて　いつか＊	82
眠れぬままに	84
あれがない	86
☆	
サンチヨ・パンサのろばの唄	88
(題名の下の＊印は私家版『サンチヨのロバが唄う』に収録されたことを示す)	
あとがき	92
私家版『サンチヨのロバが唄う』に寄せられた諸家のことば	96
私のドン・キホーテ体験	108

別冊 小柳和行作曲集

男声合唱組曲『サンチヨのろば』

装丁・絵 太田良作

サンチヨのろばが歌う



驢に騎ること三十載

京華の春に旅食す

杜甫「韋左丞丈に贈り奉る」

此の身は合あはに是れ詩人なるべきや未だしや

細雨 驢に騎って劍門に入る

陸游「劍門道中 微雨に遇う」



原作者セルバンテス殿に
代つて述べる口上の戯唄ざれうた

つぎはぎだらけの古道具

よろいかぶとに身を固め

あつぱれ天下の騎士気どり

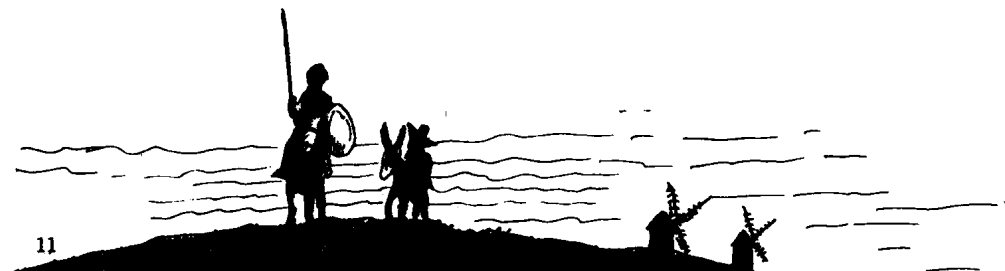
無双の名馬のふれこみは

骨が皮だけ引きかぶり

電信柱を乗せたよう

—— 似た者同士の名コンビ

ドン・キホーテとロシナンテ



横長 ひげ面 でかい口

足りないようにで抜け目ない

しんからねっからお百姓

その股下の名なしろば

見かけはチビでひ弱そう

我慢づよくて力もち

—— 重い荷物でつながった

サンチョ・パンサとこのおいら

キホーテ旦那とサンチョどん

どちらも剣は不得手でも

舌のいくさはお手のもの

ロシナンテそしてこのおいら

しゃべる舌は持たないが



いなく声は天下一品

——二人と二匹の遍歴が

かなでる四重狂詩曲

ご用と急ぎでない向きは
耳をちよちよつかしとくれ



序の唄

なんの因果か魔がさして

無双の騎士の思いこみ

おつむのおかしなキホーテ殿

またがる瘦馬ロシナンテ

少し足りないお百姓

その名はサンチョ・パンサどん

重い荷物によたつて

名まえさえないただのろば

合わせて二人また二匹

諸国めぐりの夢の旅

よわきを助け悪くじく

